

第40回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	寺尾ゼミⅡ
チーム名	寺尾ゼミナール第9期生
タイトル	手からこぼれ落ちる偶然 —セレンディピティの経済学—
テーマ群	a) 理論・情報
メンバー	◎谷川一馬・福村彩希・三原由利菜・河内悠翔・児玉章志・仁禮琴美・村部功・鈴木遼・熊野由季恵・矢持直将・岡野立志・石和真由子・山本元太・松下美津紀・月城鎮央・星野千紗・田中綾一・吉田享平・桑野美紀・太田望
研究計画内容	<p>[研究の概要]</p> <p>部屋中ひっくり返して鍵を探していたら、失くしたと思って諦めていたお気に入りの指環が出てきた——何かを探するとき、探していたものとは別の、もっと価値の高いものを見つけることがある。このようなタイプの“たまたま発見する能力”のことを、「セレンディピティ (serendipity)」という。セレンディピティとは、いわば“思いがけず出会うことのできる能力”である。本研究は、人と人との出会いをもたらすセレンディピティについて、経済学的な洞察を与えようとするものである。</p> <p>[研究の目的]</p> <p>本研究では、人が生きていくなかで繰り返し経験する“出会い”の本質を、経済学的な観点から明らかにする。「何が、ヒトとヒトとを出会わせるのか」「ヒトとヒトが出会うと、何が起こるのか」という問題について、市場均衡理論やゲーム理論などの経済理論、あるいはネットワーク理論などの観点から考察を行い、“出会い”と“セレンディピティ”の本質、ならびに両者の関連性を明らかにしたい。</p> <p>[研究の手法]</p> <p>情報通信や交通、流通、金融などに関する問題を主に取り上げる。これらに関する事実とデータを参照しながら、観察されるヒトとヒト/ヒトとモノ/ヒトとカネの“出会い”において“偶然”がいかなる役割を果たしているのかという問題を、経済理論やネットワーク理論、統計学、科学史、経営学などの観点から多面的に検証し、“出会い”と“セレンディピティ”との関係に関する仮説を構築する。</p> <p>[研究の成果]</p> <p>本研究によって得ることが期待される成果は、“出会い”と“セレンディピティ”の本質とそれらの経済的含意が明らかにされることである。セレンディピティは人のもつ能力のひとつであるが、経済学的な分析の対象となる“実力”のように、属人的な特性ではない。それはまた、“運”のように、統計学的な分析の対象になるような現象とも区別される。本研究が、人々がいつそう豊かに生きていくことができるようになるための一助となれば幸いである。</p>